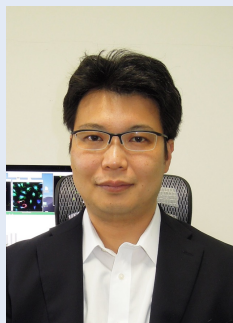


# 分泌経路に着目した核酸医薬による肝線維化治療



齋藤 康太

Kota Saito

教授 博士（薬学）

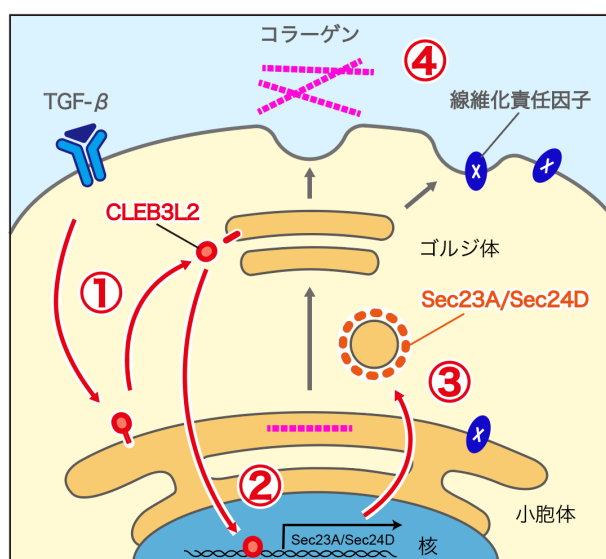
大学院医学系研究科 医学専攻 情報制御学・実験治療学講座

## 研究キーワード

分泌、肝線維化、核酸医薬

## 研究概要

肝線維化に対する根本的な治療法は確立しておらず、肝線維化を直接抑制する薬剤の開発が強く望まれている。炎症性サイトカインによって活性化した**肝星細胞**は、**I型コラーゲン**を大量に分泌するが、これが線維化の主要因である。われわれは肝星細胞の**分泌経路関連因子**の発現抑制によって、肝線維化を抑制できる可能性を見出した。本研究では、**新規核酸医薬**による治療法の可能性を検討することで、線維化抑制効果の増強を目指す。



- ① TGF- $\beta$  刺激により転写因子 CLEB3L2 活性化
- ② CLEB3L2 により Sec23A/Sec24D が誘導
- ③ 小胞体 - ゴルジ体間のタンパク質輸送亢進
- ④ コラーゲンや肝線維化責任因子の分泌亢進



## 予想される応用例

肝線維化を抑制する新規核酸医薬の創製

## 産業界へのアピールポイント

肝のみならず、線維化疾患全般に対する創薬につながる可能性を秘めている。